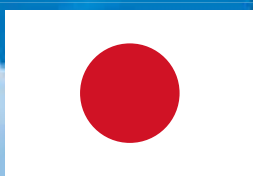


懐かしい故郷を想い

祖国再建の礎となられた

英霊に感謝のまことを捧げましょう

大和の国より英霊の声を



誇りある日本を未来へ
英霊のまなざしを感じて

大東亜戦争終結七十年

—日本人の誇りを次代に伝えるために—

あなたは、日本は好きですか。

あなたは、自分の命よりも大切なものがありますか。

あなたは、命を懸けて何かを守ろうとしたことはありませんか。

あなたは、家族を、故郷を、日本を守るために命を懸ける覚悟がありますか。

映画の宣伝文句のようですが、七十年前には、大切なものを守るために戦い、亡くなられた方々が**大勢**いらっしやいます。

昭和二十年八月十五日に戦争が終わり、平成二十七年は、終戦から七十年の節目です。

あの戦争では、多くの人が傷つき、苦しみ、そして多くのものが失われました。

わたしたちの、今の幸せは誰のおかげでしょう。

終戦後、他の国から押し付けられた歴史は本当に正しいのでしょうか。

わたしたちの道徳観や、地域で守られてきたものが、どんどん失われようとしています。

わたしたちが幸せに暮らす現代の日本は、多くの尊い犠牲の上にあります。

わたしたちのために亡くなられた方々をお慰めし、思いを巡らせて改めて感謝することは、悪いことでしょうか。

いまの日本は、戦争を知らない世代がほとんどです。

戦争の悲惨な記憶が失われたとき、戦争の悲しさが忘れ去られたとき、

日本は再び戦争への道を歩んでしまうのではないのでしょうか。

本誌には、私たちと同じ奈良県出身の方で、戦争で亡くなられた方の遺書・手記を掲載しております。

若くして命をかけた人の手紙です。大切な人への、遺された人への、熱い想いです。

そしてこれが、七十年前の現実です。

このパンフレットを手にした方、七十年前を振り返り、そして、未来の日本について考えてみてください。

日本の繁栄と家族の健康を祈って

家の夢を見ます

海軍大尉 諸井國弘 命

昭和二十年

國學院大學より学徒出陣
神風特別攻撃隊第五筑波隊
南西諸島方面にて特攻戦死
奈良県出身 二十三歳

五月六日

拜啓 既に此処南の第一線基地に来てから旬日、不思議に命長らへてまだゐります。

今日の出撃だと思へば又然らず、併し明日知れぬ我が命、一度出撃せば体当たり、五体爆弾と共に若桜、御國風に散ります。最新鋭戦闘機を愛機として行けるのは誠に幸福です。

現在の心境神様のみ御存知です。

毎日常家の夢を見ます。もうきつと魂は家に帰ってゐるのかもしれない。凡人でも立派にやる事だけはやって、御期待に副ひます故御安心下さい。今度敵空母撃沈の報あれば、國弘は靖國神社へ行つたと御思ひ下さい。二十有三年の御厚情、この一挙に報いさして頂きます。御國の為家門の為、一生懸命に祈って征きます。沖縄の空へ敵空母めがけて。

誰かがこんな歌を作りました。

我が五体 敵艦もろ共 砕くとも

折りに帰る 母の夢路に

飛行機に乗れば何もかも忘れて了ひます。良いですね。

皇國の弥栄と父母上の御健康を祈ってお別れします。

左様奈良

奈良県出身の英霊の言乃葉（遺書 手記）

魂は永遠に靖國神社へ

魂生きたるなる靖國の宮

海軍一等飛行兵曹 西川次郎 命

昭和十七年 英国領濠州ポート・ダーウィンにて戦死
現 生駒市出身 二十一歳

遺言

御両親様、次郎は立派に戦死致しました。喜んで下さい。

遠つ國に草むすかばね

盡忠の魂生きたるなる靖國の宮

次郎は永遠に生き続け国守るものと信じます身を軍實に投じよう。次郎は誠心大君のもの。

皇國の永遠の榮のいしずえと

今日も空行く甲斐ある思はゆ

終始この気持ちも大東亜聖戦の大命下るや自己の行くべき道は確信され決しました。武人の本懐之に過ぐるものはありません。御両親様とお別れするに当り海山の御高恩に深謝致すばかりで御座居ます。

大御後輝きまさん大東亜

散りて行く身の樂しかりけり

昭和十七年一月二日

海軍一等飛行兵曹 西川次郎

御両親様

明治天皇御製

世とともに

語り伝へよ

國のため

命をすてし

人のいさをを

リッパナ日本人ニナレ

陸軍上等兵 迫 末一命

昭和十九年 印度アッサム州チエザミにて戦死
現 桜井市出身 三十二歳

正一ハ父ノ顔ヲ知ラナイダラウ。生レテヨリ十一ヶ月ダカラネ。母ノ手ニダカレテ、ヨクナイタモノダヨ。父ナキアトハ母ノ言フ事ヲヨクキイテ、リッパナ人ニナレ。

オヂイサンヤ、オバアサンノイフコトハ、ヨクキイテスナホナ子供ニナルコト。カラダヲタイセツニシテ、母ニシンパイラ、カケナイコト。センゾラシツカリトマモリ、リッパナ日本人ニナレ。職業ハナンデモヨイカラ、スキナヨウニセヨ。ナンデモジシンラモツテセナクバイケナイ。ソレカラ土ヤ原ノオヂイサンヤ、オバアサンノ、ハカマキリニモ度々行クコト。

親孝行ヲセヨ。

正一 殿

昭和十八年十月四日

父 ヨリ

平和を愛するが故に

出発の朝「入隊に際して」

海軍少佐 古川正崇 命

昭和二十年 大阪外国語大学より学徒出陣
神風特別攻撃隊振天隊
沖繩近海にて戦死
現 高取町出身 二十四歳

二十二年の生

全て個人の力にあらず

母の恩偉大なり

しかもその母の恩の中に

また亡き父の魂魄は宿せり

我が平安の二十二年

祖国の無形の力に依る

今にして国家の危機に殉ぜざれば

我が愛する平和はくることなし

我はこのうへもなく平和を愛するなり

平和を愛するが故に

戦ひの切実を知るや

戦争を憎むが故に

戦争に参加せんとする

我等若き者の純真なる気持を

知る人の多きを祈る

二十二年の生

ただ感謝の一言に尽きる

全ては自然のまま動く

全ては必然なり

故郷の風景を憶って

お母様の膝下に帰ってゆきます

陸軍中尉 藤井富一 命

昭和二十年 沖縄方面にて戦死
現 安堵町出身 二十五歳

永い、二十五年間心配ばかりをおかけして、一時として安心させる様なことの出来なかつたことが何よりも心残りであります。せめて一時でも安心させたかった。しかし、富一も一人前の男になりました。今こそ最後の御安心をさせる秋が寸前に迫り、喜び勇み居ります。

(中略)

今更、何も思い残す事はありません。ただ感謝、喜び勇んで敵撃滅の決戦の空に、真一文字に征きます。お母さん、祝つて下さる。

お母さん、たとへ私の身体が帰って来なくても、心は必ずお母様の膝下に帰ってゆきます。あのうるはしい山に包まれた故郷の空へ帰ってゆきます。そして皆様と一緒に日本を守りませう。

(後略)

富一

お母様

昭和天皇御製

天地の

神にぞ祈る

朝なごの

海のごとくに

波たたぬ世を

愛する家族の行末を祈る

君あつての

陸軍 西村為春 命

昭和十六年 中国安徽省曹村にて戦死
現 三宅町出身 二十九歳

お便りありがとうございます

偲ぶ故里 まのあたり

海山遠く はるなれば

着いた慰問の うれしさよ

妻の便り 筆の跡

思い出します 一志のことは

絶えず 心に祈りつつ

今日の務めを終りては

煙草の 煙の 楽しきよ

どうか両親への親孝行を第一に 僕の宝玉にもまさる一志の教育を立派にたのみよ。体に無理せず元気でね。

君あつての一志だからね……

中支にて

昭和十六年三月十二日

靖國神社について



御祭神

幕末の嘉永六年（一八五三）以降、明治維新、戊辰戦争、西南戦争、日清戦争、日露戦争、満洲事変、支那事変、大東亜戦争などの国難に際して、ひたすら「国安かれ」の一念のもと、国を守るために尊い生命を捧げられた二四六万六千余柱の方々の神霊が、身分や勲功、男女の別なく、すべて祖国に殉じられた尊い神霊（靖國の大神）として齊しくお祀りされています。

御由緒

靖國神社は、明治二年（一八六九）六月二十九日、明治天皇の思し召しによって建てられた東京招魂社が始まりで、明治十二年（一八七九）に「靖國神社」と改称されて今日に至っています。靖國神社は、明治七年（一八七四）一月二十七日、明治天皇が初めて招魂社に参拝された折にお詠みになられた

我國の 為をつくせる 人々の 名もむさし野に とむる玉かき

の御製からも知ることができるよう、国家のために尊い命を捧げられた人々の御霊を慰め、その事績を永く後世に伝えることを目的に創建された神社です。「靖國」という社号も明治天皇の命名によるもので、「祖国を平安にする」「平和な国家を建設する」という願いが籠められています。

主な祭礼

- 四月二日～二三日 春季例大祭
- 七月一日～一六日 みたまつり
- 十月一七日～二〇日 秋季例大祭
- 毎日 永代神楽祭・命日祭

春と秋の例大祭には天皇陛下のお遣いである勅使が参向になり、御幣物（お供え物）が献じられ、御祭文が奏上されます。

遊就館とは

遊就館は、靖國神社境内に設置されている、御祭神ゆかりの品々と資料を収蔵展示した施設であります。

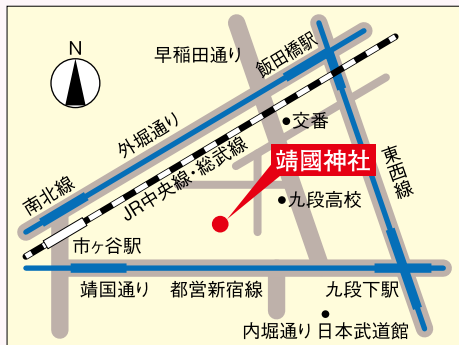
館名は中国の古典、「荀子」勸学篇「君子は居るに必ず郷を擇び、遊ぶに必ず士に就く」から「遊」就」を撰んだもので、国のために尊い命を捧げられた英霊の御遺徳に触れ、学んでいただきたいという願いが籠められています。幕末維新期の動乱から大東亜戦争に至る戦史を学べ、御祭神の御遺徳を顕彰する遺書遺品の数々は、現代を生きる我々が数多くの歴史の上に立っていることを語りかけております。

鎮座地

東京都千代田区九段北三一一一
Tel.〇三ー三二六ー一八三二二六

交通

- 東京駅より
- 中央線／総武線各駅停車
- 「飯田橋駅（西口）」、「市ヶ谷駅」下車、徒歩十分。
- 地下鉄丸の内線乗車、「大手町駅」で東西線乗換し「九段下駅」下車、徒歩五分。



周辺案内図

奈良県護国神社について



御祭神

明治維新から大東亜戦争までの約九十年間にわたり、国難に殉ぜられた奈良県出身者と県に所縁のある軍人・軍属・従軍看護婦、約三万柱の神霊並に満蒙開拓義勇軍、県下消防殉職者の神霊が護国の英霊として神鎮まりお祀りされております。

御由緒

奈良県では当初、奈良市飛火野の清浄地に祭壇を設け、明治維新以来の国家民族のため戦歿された英霊を招魂して慰霊祭を斎行しておりましたが、昭和一四年六月県下ゆかりの英霊の鎮魂と、その偉勲を後世に伝えるため、護国神社建設奉賛会が組織され創建の運びとなりました。昭和一七年九月、全県民挙げての奉仕により荘厳なる社殿が建立され、同年十月一三日奈良県護国神社と称せられ、同月二日に鎮座祭を斎行、当初約三千柱の英霊が御祭神としてお祀りされました。その後、大東亜戦争末期の戦局は一段と苛烈なものとなったため、軍人及従軍者の戦歿者数は増加の一途を辿りました。神社では戦場に散華され祖国の礎となられた全ての県出身関係者を護国の神として御祭神に合祀申し上げております。御祭神の戦歿地も厳寒の大陸そして灼熱の南の島とアジア全戦線にわたっております。

主な祭礼

三月最終土曜日曜 椿まつり
四月一五日 春季大祭
十月二二日 秋季大祭
毎日 御祭神命日祭

護国神社のいま

神社では、県出身者並県に所縁の戦歿英霊の「みたま」安かれと、日々祭祀を厳修し、奈良県遺族会を始め奈良県護国神社護持会・高円の杜を護る会・日供講等の崇敬団体と共に御神徳発揚に務めております。鎮座地は、万葉の故地で高円山の麓にあり、大和盆地を一望する景勝の地(約一万五千坪)であり、緑豊かな樹相が形成される神域は、多種多様な椿の名所としても知られ、老若男女を問わず多くの県民に親しまれております。

鎮座地

奈良市古市町一九八四

TEL〇七四二一六一―二四六八

交通

- ・近鉄奈良駅(西北出口4番乗り場)、JR奈良駅(東口1番乗り場)より奈良交通バス乗車。山村町・藤原台行きバス乗車にて約一五分、「護国神社」下車、徒歩三分。
- ・奈良公園より南へ約3キロ。県道一八八号線沿、古市町信号を左折すぐ。参拝者駐車場有(無料)。



周辺案内図

靖國神社には二四六万六千余柱の、
また全国に鎮座する護国神社には、
各地の出身者並に縁のある英霊が
御祭神としてお祀りされています。
御祭神は我が国の存亡の危機に際し、
家族と故郷を、国の行く末を信じて
戦地へ赴き尊い命を捧げられました。
今日の平和な暮らしは、多くの英霊の
おかげで成り立っています。
英霊の言葉を語り継ぎ、感謝を捧げる
ことは、平和を護る心を未来に伝える
ことでもあるでしょう。



**祝祭日には
国旗を掲げましょう**

編集・発行 奈良県神道青年会

最新情報発信中 <http://www.narashinsei.com/>

資料協力 靖國神社・奈良県護国神社